浜松 南高新聞
発行所
県立浜松南高校新聞部
静岡県浜松市米津町
印刷
浜松共同印刷株式会社

意欲ある生徒会に

斉藤会長抱負を語る

今年の一月から、斉藤会長を中心とする前期生徒会本部が活動を開始し、昨年以来発足起こってきた多くの問題に取り組んでいる。代表的な問題として、帽子の自由化、生徒集会開催の希望などがある。帽子の自由化、生徒集会を行なって生徒の意見を聞くなど力を注いでいる。また、一月十九日に行なわれた「三年生を送る会」も無事に終わらせ、今はよりすばらしい南高の歴史を築きあげようと、努力を重ねている。今後の活躍に期待しよう。

南高の民主化を

新生徒会発足

熱弁振う会長

十二月十八日に行なわれた会長選挙の結果、斉藤裕君が他を百票余り放して四十六年寒前期生徒会会長になった。斉藤会長は、我校をより進歩させ、大きなものにしていこうと考え、次のように抱負を語った。

斉藤会長所信

南高の忠花を公約として、生徒会をより盛り上げていきたい。現在、我校には帽子の自由化などを数多く問題が起こっている。これらは先生と生徒の考え方の違いから起こっているものだから、自分達の納得のいくまで話し合い、解決していきたい。

生徒集会については、できる限り多く行ないたい。しかしこれは授業のあいまをぬってやるものであるから、授業をつぶしてまでも行なえない。放課後はバスの時間の関係で思うようにできない。結局今は他の問題を検討中であるので生徒総会問題については他の問題を解決してから検討する」と語った。

次にパンの販売についての問題がある。昨年以来購買者がパンを販売するようになって以来、屋休みになれば、たいへんな騒雑ぶりを見せている。これでは不便であると思い、先生が業者に相談した。現在、業者側で検討中であるが、このような不便な販売方法はやめて、より安く買い方をしたいものである。

問題点と対策

大きな問題として生徒総会の開催要求がある。これは我校の最高議決機関である代議員会部を廃止して、議決権をもつ生徒総会制にしてはどうかという問題である。この問題について斉藤会長は「現在我校には、帽子の自由化問題や生徒総会に関する問題など数多くの問題がある。しかしそれらを一つの仕事をする場合に、今日では担当の世折と時間を要しているという。正式なルートを経て、先月行なわれた風紀審議会のアンケートも、その実施までに受身の姿勢であるからということになるだろう。そして、一つの計画を立てたらそのための準備というものをもっとやらなければならない。御殿場と阿蘇がかなり充実するのは、準備に大へんなエネルギーを投入しているからである。

生徒会についても他人任せという者が多い。生徒会に関心をもつ者はその中で仕事をしているわけで、それを手につけて、もらいたいものである。生徒会組織の実際は単位がもうえないからである。金員参加の本来の目的を考えて、クラブ数の充実、志望クラブの慎重な選択などを真体的に考えていってもらたい。

我々の中に、高校生大学への素化できるものがあれば、ますます充実してゆくであろう。

論説

心を求め合う広場

高校生活を送るうえで我々はLHR・生徒会・クラブと教科授業とは別の場を持っている。しかし実際はやはり我々生徒が、HRというものに対してひどく消極的で受身の姿勢であるからということになるだろう。そして、一つの計画を立てたらそのための準備というものをもっとやらなければならない。御殿場と阿蘇がかなり充実するのは、準備に大へんなエネルギーを投入しているからである。

生徒会についても他人任せという者が多い。生徒会に関心をもつ者はその中で仕事をしているわけで、それを手につけて、もらいたいものである。生徒会組織の実際は単位がもうえないからである。金員参加の本来の目的を考えて、クラブ数の充実、志望クラブの慎重な選択などを真体的に考えていってもらたい。

我々の中に、高校生大学への素化できるものがあれば、ますますクラブをやめれないか。理由は簡単である。クラブは強制参加になり、クラブに所属しない生徒は単位がもうえないからである。金員参加の本来の目的を考えて、クラブ数の充実、志望クラブの慎重な選択などを真体的に考えていってもらたい。

クラブ活動についてはやはり強制参加になり、クラブに所属しない生徒は単位がもうえないからである。金員参加の本来の目的を考えて、クラブ数の充実、志望クラブの慎重な選択などを真体的に考えていってもらたい。

クラブ活動については、やはりたくさんのクラブへ来て、無駄に時間を過ごしている者が多くいる。彼らはなぜクラブをやめれないか。理由は簡単である。クラブは強制参加になり、クラブに所属しない生徒は単位がもうえないからである。金員参加の本来の目的を考えて、クラブ数の充実、志望クラブの慎重な選択などを真体的に考えていってもらたい。

我々の中に、高校生大学への素化できるものがあれば、ますますクラブをやめれないか。理由は簡単である。クラブは強制参加になり、クラブに所属しない生徒は単位がもうえないからである。金員参加の本来の目的を考えて、クラブ数の充実、志望クラブの慎重な選択などを真体的に考えていってもらたい。

高校生活を送るうえで我々はLHR・生徒会・クラブと教科授業とは別の場を持っている。しかし実際はやはり我々生徒が、HRというものに対してひどく消極的で受身の姿勢であるからということになるだろう。そして、一つの計画を立てたらそのための準備というものをもっとやらなければならない。御殿場と阿蘇がかなり充実するのは、準備に大へんなエネルギーを投入しているからである。

生徒会についても他人任せという者が多い。生徒会に関心をもつ者はその中で仕事をしているわけで、それを手につけて、もらいたいものである。生徒会組織の実際は単位がもうえないからである。金員参加の本来の目的を考えて、クラブ数の充実、志望クラブの慎重な選択などを真体的に考えていってもらたい。

我々の中に、高校生大学への素化できるものがあれば、ますますクラブをやめれないか。理由は簡単である。クラブは強制参加になり、クラブに所属しない生徒は単位がもうえないからである。金員参加の本来の目的を考えて、クラブ数の充実、志望クラブの慎重な選択などを真体的に考えていってもらたい。

クラブ活動については、やはりたくさんのクラブへ来て、無駄に時間を過ごしている者が多くいる。彼らはなぜクラブをやめれないか。理由は簡単である。クラブは強制参加になり、クラブに所属しない生徒は単位がもうえないからである。金員参加の本来の目的を考えて、クラブ数の充実、志望クラブの慎重な選択などを真体的に考えていってもらたい。

我々の中に、高校生大学への素化できるものがあれば、ますますクラブをやめれないか。理由は簡単である。クラブは強制参加になり、クラブに所属しない生徒は単位がもうえないからである。金員参加の本来の目的を考えて、クラブ数の充実、志望クラブの慎重な選択などを真体的に考えていってもらたい。

生徒集会

席はガラ空き

意見のくい違いめだつ

一月九日、前期生徒会本部が活動を始めて、最初の生徒集会が視聴覚室で行なわれた。

参加者は本部の呼びかけにもかかわらず、五十名たらずで南高生徒の無関心さをそのまま表わしているようであった。話し合いは三時四十分から始まる予定であったが、数が少なかったため、実際には十分遅れて始められた。

話し合いの内容は、風紀問題（着帽自由化、靴の問題）、本部の活動報告とそれに対する質問などであった。着帽自由化の問題については次のような意見が上がった。「着帽するしないはこちらでもよいから、学校側でしっかりと決めてほしい」「着帽自由化を要求するためには、我々が帽子を着用して、節を通してからすべきだ」「実現できない」「義務を果さないうちは、それ以上の権利を主張しようと言うのか」「先生方は義務を果してから権利を主張しろと言うが、すべての義務を果たせればこれに対して「先生方は義務をしなかったのか」「先生方は世間の声を気にしすぎるのではないか」「又次のような意見もあった。「最終的に乱れているのので、風紀委員会などで話し合ってもらいたい」「義務を果さない」「実現できない」「義務を果さないうちは、それ以上の権利を主張しろと言うのか」「先生方は世間の声を気にしすぎるのではないか」「又次のような意見もあった。「我々は何も権利を主張できないのか。そのようなことをしていればいつまでたっても着帽の自由化は遠のくばかりである。」「職員室の雰囲気をしているとお手が捨てられているのを多く見る生徒は当然お手を集めているのだから先生方も協力して欲しい」本部の活動報告では「生徒会の機関誌である『潮騒』の第一号を発行しました。これによって本部の仕事をみなさんに解ってもらい、生徒と本部とのつながりを深め、生徒会活動を盛り上げて行きたいと思います」と語り、生徒集会を終った。

今回の生徒集会は、参加者が少なかったため寂しく盛り上がりを見せなかった。しかし着帽自由化に対する生徒の意見のくい違いなど多くの問題が浮び上がった。生徒集会に参加しなかった人達にもいろいろな問題があるだろう。しかしそれからはできるかぎりこのような機会に参加し、多くの人と話し合い、理解を深め合って、生徒の力で我校を改善してゆくべきではないか。

活躍目立つバスケ

男女共に県大会へ

▼卓球部

十二月二十一日にTSP杯、一月十日には会長杯が市体育館で行なわれた。その結果、会長杯において、鈴木みち代さん（18日R）が四回戦まで進んだ。これからの練習方法としては、体力作りに励み四月のインター杯に備えると語っていた。

▼バスケット

一月十四・十五・三十一日に新人戦が男子は新居・城北・浜商体育館、女子は市立体育館で行なわれた。

▼男子バスケット

一回戦（中遠）二回戦（農経）準決勝（浜北）と勝ち進み、決勝で浜商に敗れた。

決勝　本校35—70浜商

▼女子バスケット

一回戦（舞阪）二回戦（二俣）準決勝（城北）と勝ち進み、決勝で市立に敗れた。

決勝　本校51—107市立

この結果、男女共に県大会出場を決めた。県大会の結果は、男子は準決勝で清水南に65対49で惜しくも敗れた。

これからの練習方法として、男子は他に相手チームよりも速い動けるようになるため、身長を見てカバーできるよう練習をすると語っていた。女子は逆襲（速攻）短でディフェンスする）シュートの確率性に重点をおくことなどをあげている。

これからは、日頃の練習の成果を生かして大いに活躍してもらたいものである。

練習に耐えるバスケ

五十メートルで五位

基礎体力作りを

四十五年度秋の運動能力テストにおいて、我校の男子総合五十メートル走（一年七秒一二、二年六秒八八、三年六秒九五）で、県下八十六校中、第五位に入賞した。

体育科の松下先生は「五十メートル走で上位入賞したことは、大変良いことである。しかし残念ながら上位にいるので、授業時ト位にはなってほしい。また体育クラブ活動、運動部等にも参加してもらいたい。今回は参加者の減少が見られたが、自分の運動能力を知る意味でも皆が参加すべきである。やるからには勝つという心意気で、体育の授業で今以上に基礎体力を向上させるようにがんばってもらたい」と語っていた。

当然運動部に力を入れれば学力が低下するのではないかという疑問が出て来る。確かに運動部に力を入れるのは考えものだ。しかし高校は大学への予備校でしかないと言われている現在、勉強に追われて一日を過ごす我々にとって、少しの時間をさき、若者の持つエネルギーを運動により発散させることも必要ではないだろうか。特活体育は、運動部以外の生徒には負い運動の場であるから、今一度特活体育を検討してもらいたいものである。

雪原に躍る若人

スキー教室開かる

第七回スキー教室が二月二日から七日まで、志賀高原丸池スキー場で開かれた。これは毎年行なわれているもので希望者が多く、抽選で四十五名にしぼられた。

三日午後六時、小雨の降る浜松駅前に集合。明日の天気を心配するような会話の中を出発した。四日午前七時、朝モヤの銀世界に到着。午前旅館で睡眠をとった後、練習にはいった。スキーをかついでゲレンデに出る顔には不安がうかがわれたが登るのに一生懸命で、第二日は終わった。五日の朝、外に出ると猛吹雪。全員で雪の踏みつけをしてから練習を始めたが、昨日とはうって変わったような悪条件のため練習にも一段と力がはいった。昼食のために旅館にもどった時スキー靴のヒモが凍ってほどけないところ、鼻手も凍ってパリパリいうのに閉口しているようすであった。依然として雪の降り続く午後の練習は、また断念つけで始まった。そのうち滑降、個別もできるようになり、リフトに乗る班もあった。一日中吹雪であったが練習には、一段と熱がはいっていた。六日ゲレンデ教室最終日を楽しめと言わんばかりの上天気。午後になって女子もリフトに乗るようになり習得技術をフルに発揮していた。一月七日午前七時半、自銀のスロープに別れを告げ浜松へ。途中善光寺へ寄り、疲れたようすもなく写真を取ったりみやげを買ったりしていた。

今年のスキー教室では、スキーを折る事故が二年男子で起ったが、ケガはなく全員無事で終了した事を先生方も喜んでおられた。

スキーを楽しむ生徒

東大助教授語る

人間味あふれる氏

十二月二十日、我校に東大理学部助教授有馬朗一先生がみえられ、体育館において講演が行なわれた。

先生は伊豆浜松二中（現在浜松北高）を卒業し、旧制浜松高校に学んだ。父親を早く失ったため学費は授業料免除という条件で、苦学を続けられた。

先生は幼少の頃、相手の気持を考えるものだ。しかし高校は大学への予備校でしかないと言われている現在、勉強に追われて一日を過ごす我々にとって、少しの時間をさき、若者の持つエネルギーを運動により発散させることも必要ではないだろうか。特活体育は、運動部以外の生徒には負い運動の場であるから、今一度特活体育を検討してもらいたいものである。

先生は去年の四月二十二日、他界された「緑亭清花」の什事を引継ぎ、生活の糧にされた。学者の無外への流出の原因として経済から研究費の不足を挙げ研究生活が困難であると」などの他に「日本の大学は雑務が多すぎて研究生活が困難である」などの点がかかげられている。先生の背負いこんだものである。我校の新入生に対する期待の中で、先生は「新入生は、はっきりと自分の意思をもって、自分の性格が現われていた。職員の内容は高校生には解らない所があったろうが、このような先生の人間性にひかれたことが、私たちにはいえ、これでは生徒会の前途あやぶまれる。あゆ、二年生は偉大だった。

（資料は週刊新潮による）

先生の高校生時代

授業中でも潮の香

代返を頼み浜へ

今回は、数学担当の久保司先生をお尋ねすることにした。

高校一年の時だった。教室の後に「この学校の正式の名前を知っているか」と聞かれたが、五十一名中ひとりも答えられなかったその時教えてもらったのが、北浜高等女子校である。三学年、普通科・商業科・家政科・クラブつの小さな高校であった。裏は砂浜で、授業中でも潮の香がする。こんな小さな高校でも、先生方はなぜか必ず出欠点呼した。それを幸いな事に代返を頼み、砂浜へ走ることしばしば。海が荒れた後など浜へ打ちあげられたホッキ貝を、学校のストーブで焼いて食べた味は忘れられない。

今でも思い出されるのは先生方である。英語のある先生は、一度も授業に書物を持ってこられなかった。我々がわからない単語を引いていると、すかさず「何頁の右側の上の方」。昔ことうだからその先生には今で頭が上がらなかった。この先生の作った実力テストが、当時の北浜の入試問題に出た。もう「何をお言わんや」である。

社会科のある先生は、高校生が初めて参加した安保闘争の後（高校生の参加が強く批判されていた時）「学生運動の歴史」と題して校舎をよく考えてみろ」と言われたことがあった。今でも頭の中に残っている。

こうして良き師に恵まれ、級友はよく勉強していた。進学希望者一十二名中、半数が国立大へ入学した。考えてみると、勉強はかりしていた高校生時代であった。

昼食をパクつく久保先生

遠州灘

桜のつぼみもやっとふくらみ始め、やっと春らしくなってきました。コートを脱いだ生徒たちの青に春の日が輝かく眠りしてます。ところで春といえば三年生のみなさんもいよいよ卒業ですね。本当にしみじみとこの三年間の生活を忘れずいつまでもお元気で。それから今も遅夜で勉強している人たち、健康に注意してがんばって下さい。

なんだか卒業式の送辞みたいになってしまったけど、一・二年生は内心ほっとしているんじゃないですか。怖い三年生はいなくなるし、今度は自分たち三年生が最上級生になる。一年生は一年生で、新入生をクラブでしごいてやろうとはりきっていることでしょう。はりきるのはいいけど、しごきはほどほどに。卒業生が私達にしてくれたように暖かい目で新入生を見守りましょう。

新入生といえば来年度から商業科と同じ四クラスになるそうですね。商業科は全部女子だし、普通科にも少いけれど女子が入る。このまま四クラスずつになっていくと、三年後には学校全体で女子のほうが多くなる。ああここにもウーマンリブの波紋が。いつの日か男子は街追い出されて、女子だけの学校になってしまうかもしれないね。とにかく男子よ、女子には気をつけろ（筆者女性恐怖症）

入学してすでに十一ケ月ぢまり過ぎた二年生。入学当時の緊張した空気はどこへ行ってしまったのか。どうも学校に慣れすぎたという感がある。例としては第一に遅刻者の増加。冬の間は多いのが毎年のことだが、それにしても多すぎる。はやい人は七時五十分迄にはすでに登校しているというのにやる気十分でのんだ一時間目、調子が出かかった十分過ぎに大きな音をさせて入ってくる遅刻者。先生も生徒も一瞬白けてやる気半減。遅刻者よ、自分だけの問題ではないのだ。クラス全体に迷惑がかかることを考えてほしい。第二に早弁をする人がふえてきたことだ。いちばんはやい人は、SHRの前にすます。しだいにその数は増し、二時限と四時限の間の休み時間がピークになる。昼弁の理由は朝食を食べて来ないとか昼まで待てないなどさまざまである。これも遅刻とあわせて、緊張しきった空気が欠けたためか。しかし、新入生がこの姿を見たらどう思うだろうか。もっと先輩にたるべき者の威厳を持ってほしい。

最近、生徒会と聞けばすぐ風紀浮かべるのが着帽自由化問題。前期生徒会本部はこの問題と慎重に取り組む姿勢を見せている。しかし生徒のなかには、今までの問題に無関心な者が多いことも見逃せない。先日行なわれた生徒集会にもそのことがよく現れている。今回はいつもと違い、視聴覚室で開かれたのだが、二年生がいなかったためかまことに寂寞たる感じ。我校の前途あゆぶまれる。あゆ、二年生は偉大だった。

メガネの 吉田屋
駅前広小路通り
広小路店 53—1188(代)
浜交ビル店54—0181(代)

御通学には指定制服で
女子冬指定服
〃 夏スカート
〃 冬トッパー
男子制服詰エリ
生地毛純毛日毛カンドス地
〃 ギャバ地
御調製
特約店 大森洋服店
浜松市佐藤町 TEL(61)3288

スキー
スポーツ用品は
アオヤマスポーツ
浜松市肴町141の2
TEL 52—9148
国道 文泉堂 中央ビル イケヤ ダイエイ 有楽街 アオヤマ

南高校制服指定
ユニチカ 日本毛織 純毛サージ カシミヤ
◉注文制服専門
静岡県代理店 栗林株式会社
浜松市下池川町 TEL(71)7295
（信愛高校入口）

メガネで生かそう
あなたの魅力！
至誠堂眼鏡店
浜松・伝馬町角・会議所前
TEL 52—6219

大学入試に
わが家のつもりで勉強できる
受験生用客室
日本交通公社 浜松営業所 TEL53—2111

レコード・楽器・ステレオ
〈音楽教室〉 ギター・ドラム・ピアノ・オルガン・琴
音のハイショップ
イケヤ
本店（有楽街） 52-5151　鍛冶町店 53-5550
遠鉄名店ビル店 53-7814　袋井店 2-2529

三年間を振り返って

いなかった恩師
在校生に望む
何ごとも積極的に実行

四十五年度も終わりに近づき、卒業式を迎えた。様々な思い出を胸に秘めて、南高を去っていく卒業生に、アンケートを行なった。

初めに思い出として、最も印象に残っていることは、我校の特色の一つである阿蘇の集団訓練が多かった。他には、クラブ活動・マラソン大会などが印象に残っているようだった。

親密感がない・恩師と呼べる教師がいなかったなどの意見が圧倒的であった。入学した時の我校に対する感想と、その後の変化は、入学当時の期待が崩れていった人が多かった。力強いと思った学校が弱々しい学校に思えるようになったり、新鮮な学校から腐敗した学校と変わっていったようである。

勉強以外で学んだことは、人間関係のむずかしさ・協力・話し合いの重要さなど社会的なことが多く人間のきたなさ・醜さなど厳しいものから愛まで様々であった。最後に在校生に望むことでは、責任をもって、積極的に物事にぶつかる・卒業する時諦めしないように一刻一刻を大切にする・南高のことを考え、名を汚さないようにするなど先輩らしい忠告が多かった。

次に一部の卒業生に、三年間の高校生活の思い出や、在校生に望むことなどを短い文章に記してもらった。

「制服」の良さは、制服を脱ぐ時にわかるもの。これから高校生活を送る後輩たちには、制服の"つらさ"を自分のものとして味わい、そこから「制服」を誇れる南高生になってほしい。(Y・A)

クラブで友と激しい練習ができたことはとてもうれしい。クラブというものは、身体面にはもちろん精神面においても非常に大きな意義を持つものではないだろうか。(K・N)

卒業。この日を迎えて思い出してみるに、私にとって三年間は非常に短かった。またあれも、これもやりたいということがある。しかし、今まで行なってきたことがすべて完了したわけではない。中途半端なものが大部分である。これでも三年間は過ぎ去ってしまったのである。充実した高校生活を送りたいのなら、何か一つ目標を決めるのがよい。しかし、現在の南高において、それは望めないだろう。(F・F)

卒業自の前にして、こんなことを感じた。それは、三年間通して得たものを、在校生に伝える機関というか機会がなかったことだ。一、二、三年の間の交流をもっと深めるべきだと思う。在校生の諸君！この問題は、我校の言点ともいえるのではないか。(H・O)

平凡な高校生活、空虚とした思い出。そして空虚な経験生活。しかし、もう一度考え直してみたい。ぼくらの三年間は、ぼくら自身の生活があったように思える。(M・Y)

卒業。早いものだと思う。

三年生を送る会
進行に不満募る
心に残るか三年生

さる月十九日、恒例の"三年生を送る会"が体育館で行なわれた。これは卒業を間近に控えた三年生に、三年間の思い出を贈しながら楽しんでもらおうと、生徒会本部が主催したものである。

三時三十分に閉会式を始める予定であったが、集合が遅く、さわがしかったため少し遅れた。最初に記念品贈呈、賞状授与式が行なわれた。一時二十分から各種の催し物が繰り広げられた。

はじめに一年生の部で"大きり"と劇"悪医蔵"。"大きり"は準備が整っていなかったため開幕が遅く、なだ時間が多かった"悪医蔵"は二幕に分かれていたが、幕と幕の間が長く、さわがしかった。マイクの使い方が手まかったためか声が聞きとりにくかった。

次に職員有志の今田先生がギターの名演奏を聞かせてくれた。今までのさわがしさとはうって変わって静かに聞き入っていた。

続いて二年生の部で劇"意地悪ばあさん"と"現代版白雪姫"。ところどころ聞き苦しいところもあったが、やはり二年生らしくマイクの使い方も巧みであった。

最後は有志の部。はじめにダニ・オブ・ミナミ(二年五H Rの松井さん)のギター演奏。次にザ・ワルノリーズ。このグループは二・三年生で結成されている。演奏は係の計画不足のため中断された。

有志の部の後に三年生の話をプログラムに組んであったが、時間がないためとやめになった。

出演者は熱心であったが、観客は紙飛行機やテープを飛ばしたり席を離れたりしていた。高校生らしい態度で会に臨んでほしいものである。

昨年と同様に進行はうまくいったとは言えない。長い幕の間を利用して司会者が、なんとかして盛をたいくつにさせないように苦労していた。閉会式も十五分ほど遅れて、有志の部では出演者が間に合わなかったりして、予定では閉会式が三時三十分であったが二十分ほど遅れ、しり切れとんぼのような終わり方であった。

はたして三年生に喜んでもらえただろうか。時間が伸びたことだけ思い残っているのではないだろうか。三年生中心の"三年生を送る会"にしていきたいものである。

冬季運動大会
地味な応援風景
無理な組み合わせ

球技大会

冬季運動大会が十二月十六日から運動場、体育館で行なわれた。これは四日間にわたるもので、種目は男子サッカー、女子ソフトボール、そして男女ハンドボール、バスケットボールである。

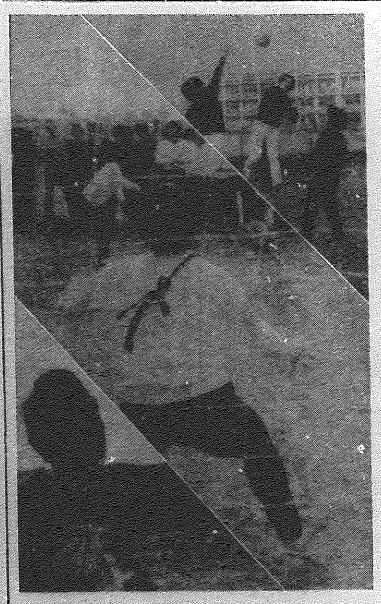
寒さのためと二学期期末テストがあったので、朝早く登校したり放課後まで利用して練習する姿は夏季運動大会に比べて、ずいぶん少なかった。しかし中には今回の方が多く練習したというクラスもあった。

体育館で行なわれたバスケットボールは男子35H R、女子39H R運動場で行なわれたハンドボールは男子34H R、女子29H R、男子サッカーは34H R、そして女子ソフトボールは普通科がそれぞれ優勝した。生徒の印象に残っていた試合は、女子ハンド16H R対29H R、女子バスケ39H R対教員、男子バスケ23H R対教員などであった。応援風景は夏季の方が派手で全体的にまとまりがあった。今回はそれに比べると余り活気がなかったようだ。

ゲームは厚生委員が集まってくじびきをして組んだものである。それについて生徒の一部に一年女子と教員、一年男子と三年男子の試合に無理があるのではないか、などの声が聞かれた。

これからの希望としてクラスがもっとまとまる、みんなやる気を出す、審判は差別しないで公平にルールをはっきりする、そして準決勝、決勝の日時を残っていないクラスだけマラソンを行なったことに対して何か他の方法がないかなどの意見が生徒に言われた。

本年度冬季運動大会を終えて、元会長の竹下さん(計画を立てたので十分な話し合いができなかった。だれでも参加できるようにルールをもっと簡単にし、個人別の賞状、学年別の賞状、賞品を出してもっと楽しいものにしたかった。と語った。新会長の斉藤さんのこれからの方針は不行届をなくす、争いをなくしきれいなものにするなどである。また生徒の情緒にもできるだけ心をくばり努力したいと語っていた。



マラソン大会

十二月二十三日(水)、校内マラソン大会が行なわれた。

この日は、朝方は大分冷え込みが厳しく、多少風が吹いたりすれども、日が高くなるにつれて暖かくなり、上々のコンディションであったといえよう。

寒刻、緊張しきった空気の中を女子がスタート。その距離、五キロ。M。男子はこれに遅れること十五分、南高の大きく一回りする女子の二倍の一万二千Mの行程を男女共に自己の持つ持久力と耐久力を激しい合った。その中には、まだ走られた先生方のハッスルフェイスも見受けられた。コースも半分を過ぎる頃になると、首尾の長い絵端に開いてきた。それでも要所要所に待機していた先生や生徒の激励に、クラスメートの根性に励まされて足を速めるという光景も見受けられた。

かくして、出場者は無事ゴールに駆け込んだ。この結果、男子では伊藤公夫君(31H R)が、女子では島勝子さん(38H R)がそれぞれ優勝した。今回も全部的に運動部が本領を発揮したことが自立ったが、文化部に属している生徒の中にも上位入賞者がいたということは、注目すべきことであろう。

※なお三位以下の入賞者は次の通りである。

男子	三位	渡辺　正己	22H R
	三位	広野　馨	12H R
女子	二位	井ノ口厚子	26H R
	三位	河瀬　服美	16H R

生徒の声
ボウシノユクエ
高校生らしい解決を

学校・生徒会などについて望みたいこと、困っていることなどを一・二年の普通科、商業科を対象にアンケート及びインタビューして見た。その結果次のようなことがあげられた。

これらのうち生徒会側の問題として生徒の声・本部の声は次のようなものであった。

生徒　現在、本部がどのような活動をしているのかわからない。本部と生徒と結びつけるために伝達をしっかりしてほしい。

本部　月に一～二回、生徒会機関紙を発行する。手刷りなので遅れることもあるが了承してもらいたい。

生徒　着帽の自由化の問題はいったいどうなっているのか。また着帽の自由化が決まらない現在、登校・下校に帽子をかぶっている人が多数見られる。この状態で果たしていいものだろうか。

本部　まだいろいろと話し合っている段階であるが、生徒の意見をまとめ検討を重ねゆくつもりである。この問題については、期間で解決できない大きな問題だと思う。これからの生徒会・学年別座談会・風紀委員会で、生徒全員の団結が見られなければならない。正式なルートとして高校生らしい解決をしようではないか。

生徒　パンの販売法について、以前からいろいろと議論がなされたがどうなっているのかわからない。また帽子をかぶらない者について、まだはっきりと言えない。

本部　委員会を行ないたい検討中がなかなかむつかしく解決が見当たらない。なるべく早く解決策を見つけ、実行移すように努力したいと思う。

このほか「校歌などを歌う機会をつくってほしい」「生徒と先生との話し合いの場所を設けてほしい」「普通科と商業科との交流の場所を設けてほしい」など、また「制服にもできるだけ心をくばり努力したいと語っていた。

寄贈品に大時計
いつまでも残るものと

今年度第六回卒業生から記念品として大時計が我校に寄贈されることになった。

今年は第十記念号贈るかどうかということについて三年各クラスから話し合いがされた。その結果今年度は物的体制の中に、まるまられてしまったからだと思う。しかし、この体制は、すぐにはなくしてもらえない。だから、「卒業」を実感あるものにするには、平素からの教養が大切だ。一年生より今からでもまにあう。(T・H)

十二年間の学校生活という動道を思った時、そこには一種の解放感と愛着とが……。また、これから歩く新しい軌道を思った時、そこには希望と不安とが……。

とにかく、後にできる学校を築立っていきたい。(H・K)

一時漂行した感に、「昭和ブルース」という歌がある。今の私の心境は、あの歌詞そのものである。「……何も知らずに生きていくなら、それはたやすいことだけど」我校の生徒は、あらゆる面に対して知らなすぎる。いや、知ろうとしない、気づかないといった方がいいだろう。卒業まで近になってあれもやりたい、これもやりたいと思っても遅すぎる。卒業まであと少年。いったい何ができるというんだ。(S・Y)

卒業というものは、長い人生に一つのものであって、その後には何が新しいことが待っていると思う。だから、すこし寂しいけれど、いたずらに過ぎることを考えようって思っています。(M・E)

二年間慣れ親しんだ校舎とも別れ、新しい世界へ飛び立っていく卒業生。これからも学生生活を続ける人、また、学生時代を終える人。思い出深かった文化展、我愛なられては砂の芸術展。若さをぶつけた運動大会、体育大会、苦しかったマラソン大会厳しくもあり、楽しくもあった阿蘇・御殿場の集団訓練。すべて学生時代だけのものである。

公害もなく、のびのびと学ぶことのできる恵まれた環境のもとですごした三年間。夢を語った校舎、青い海忘れないでください。

これから先悪しいことも、苦しいことがあった時思い出してください。南高のことを、私たち在校生のことを!

職員室だより

◇化学の各日先生は今やたいそう御満悦である。というのは昨年秋に書棚が完成し、ことしになって新たに温室を完成したからである。温室を基礎たというとびっくりする善者もいるだろうが、まあまあとんな次第である。

まず鉄骨は大庭先生の親戚の家からもらいうけ、基礎工事と組立ては土屋先生と鈴木先生の協力を得、最後のペンキ塗りは自分でという具合に、まことに簡便にとんとんと出来上ってしまったのである。それが終えたすぐる立派なのである。ヘイのブロックを積んだとか、車庫を作ったとかいう話はよく聞くが、温室を造ったというのは各日先生が初めてで、さすが社会科の先生だ。

◇最近ちょっと元気がおかしいのは福田先生である。今ではあまりなにかというと、さ、ちらず、実に生がこのほど九万円もする登山靴(筆者注＝こんな立派なものを持っている人は、浜松広しといえどもそうゆたにはいない)を買いこんだというので先生方は「今度の日曜日はだめだ」という話が流れ、まことにそっけない。じゃあまりなにかというと、さ、ちらず、実に「ウキウキしている。その福田先